

## 1 単元名 「ながさくらべ」

### 2 単元について

長さの学習は、量と測定の学習の基本となるものである。基準となる大きさ、すなわち単位の幾つ分であるかを求めることで量の大きさを数で表すというのが、量を測定するという意味であり、その理解の基礎となる経験を重ねるとともに、量の大きさについての感覚を豊かにすることがねらいである。

まず長さの直接比較から始め、「比べるものが移動できない」場面で間接比較を考える。さらに「どれだけ長い、あるいは、短い」を表現するための数値化の必要性から、次の任意単位による長さの測定、適当なものの長さを単位として、その幾つ分で表すことへと進む。

このように、児童自身が必要感をもちながら自ら測定方法を見出し、学習をすすめていくことが大切であり、2年生での普遍単位による測定へと自然に発展していくことを見通して指導していくことが肝心である。尚、単位の幾つ分という考え方は、量の保存性と加法性の理解が前提となるので、その程度によって個別に指導しておく。

### 3 単元の目標（詳細は、評価規準参照）

- (1) 身の回りのものの長さのくらべ方に興味をもち、長さを数値で表すことのよさを知り、この方法を進んで生かそうとする。(算数への関心・意欲・態度)
- (2) 『単位とする大きさを決めて、その幾つ分として長さを考える』という測定の基礎となる考え方を身につける。(数学的な考え方)
- (3) 直接比較や間接比較、任意単位による数値化などによって、長さを比較することができる。(数量や図形についての表現・処理)
- (4) 直接比較や間接比較、任意単位による数値化などによる長さの比較方法を理解する。(数量や図形についての知識・理解)

### 4 単元計画（詳細は、評価規準参照）

(全2時間)

#### 第1時

長さについて、並べたり、重ねたりして比較する。

ひもなどを用いて長さを写し取り、長さの大小を判定する。

#### 第2時

適当なものの長さを単位として、その幾つ分で長さを比較する。

5 本時の学習指導

- (1) 本時の目標 直接重ね合わせることでできないものも、基準量のいくつ分で長さを比べられることに気付く、そのよさを実感する。
- (2) 学習指導過程

学 習 活 動 ・ 意 識 の 流 れ	支 援 と 留 意 点
<p>1 寸劇を見て、「魚の大きさ（長さ）比べ」が本時の学習課題であることを確認する。</p> <p>(1) どちらが長い予想する。</p> <p>(2) 前時の比べ方を思い出すとともに、前時のように直接比べられないことに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「口から尾びれまでの長さで比べるんだね。」</li> <li>・「どちらが長いかな。」</li> <li>・「アの方がちょっと長いみたい。」</li> <li>・「魚拓だから、ならべて比べられないな。」</li> </ul> <p>2 自分で工夫して長さを比べる。</p> <p>(1) 身の回りにあるものを使って比べる。</p> <p>(2) 比べ方と結果をノートに記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指を広げて( )回</li> <li>・鉛筆で( )こ分</li> <li>・消しゴムで( )こ分</li> <li>・数図ブロックで( )こ分</li> <li>・紙テープに長さを置き換えて</li> <li>・ものさしで測って</li> </ul> <p>3 結果を発表し、比べ方について話し合う。</p> <p>(1) 比べ方を説明し、結果を発表する。</p> <p>(2) 比べ方のちがいやよさを見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなアの方が長かったんだね。」</li> <li>・「 の幾つ分で比べている人が多いね。」</li> <li>・「どちらが長いかだけじゃなくて、どれだけ長いかわかるよ。」</li> </ul> <p>4 よりよい比べ方で、もう一度魚の長さを測り、そのよさについてまとめる。</p> <p>(1) 数図ブロックの数で長さを比べる。</p> <p>(2) 単位となる量の幾つ分で比べるよさをノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「同じ形と大きさのブロックで測ってみよう。」</li> <li>・「どちらが、どれだけ長いかはっきり分かるね。」</li> <li>・「ブロックを使って他のものも測れそうだ。」</li> <li>・「他のものを使って測ってみたいな。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもたちが、興味関心をもつとともに、必要を感じて長さくらべに取り組めるように、担任教師と副担任教師とで寸劇を行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「どちらが長い？」</p> <p>AとBは、日曜日に釣りに出かけた。二人ともなかなかの大物を釣り上げたが、魚拓だけとって海に返した。帰ってから、魚拓を見ながら話しているところでも自分が釣った魚の方が大きいと言い出し、けんかになってしまった。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の比べ方のきまり、「端をそろえる」「まっすぐのばして比べる」を提示し、劇の場面に照らして、本時は別の比べ方を工夫する必要があることを確認する。</li> <li>・ 身の回りにあるものの中で何が使えるそうか尋ね、子どもたちが答えたものを板書して、全員が見通しをもって長さくらべができるようにする。</li> <li>・ ドッジボールのコートの真ん中の線をどうやって決めたいか思い出し、長さの測り方のヒントにする。</li> <li>・ 同じものを使っていないなど、正しく測れていない子どもには、具体的に比べ方を示したり、うまく比べられている友だちのを見に行くよう助言したりする。</li> </ul> <p>&lt;評&gt;</p> <p>【考】「直接重ね合わせることでできないものの長さの比べ方を任意の大きさの幾つ分として長さを考えることができる。</p> <p>B：指を開いた長さの幾つ分など、数値による長さの比較の仕方を考えることができる。</p> <p>A：長さを数値化することのよさに気付きながら、数値による長さの比較の仕方を考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使ったものはちがっていても、みんな「決められた長さの幾つ分」で表していることに気付けるように、子どもたちの発表をまとめ、板書していく。</li> <li>・ テープを使った比べ方を取り上げ、どちらが長い（短い）かが、よく分かる方法であることを認めした後、友だちの比べ方のよいところはどこか、さらに考えられるように問いかける。</li> <li>・ ものさしで測った子どもには、一辺の長さが1cmの立方体をわたし、「この幾つ分になるか」確かめられるようにする。</li> <li>・ 「みんなが一斉に使えるもの」として数図ブロックを選び、測っていくことにする。</li> <li>・ 数図ブロックを使うときに、前時に学習した比べ方のきまりが守られているか確認し、前に習ったことがここで生かされていることを押さえる。</li> <li>・ くらべた結果は、「どちらが、どれだけ長い」と記録し、比べ方のよさがまとめやすいようにする。</li> </ul> <p>&lt;評&gt;</p> <p>【表】「任意のものを単位として、どれだけ長いかを比べることができる。」</p> <p>B：机の縦と横のように、直線で比べられないものの長さを指を開いた長さや鉛筆などを用いて任意の幾つ分あるか、数量化して自分の考えを発表することができる。</p> <p>A：上記のことについて、身の回りのものの長さを、基準量の幾つ分と表し、ノートに記録できる。</p>